The Tokyo Branch Letter No.71 RSCDS 東京ブランチ
東京ブランチレター May 2006
A Newsletter of the Tokyo Branch of the Royal Scottish Country Dance Society
Editor: Tom Toriyama, 6-9-21, Ohzenji-nishi, Asao-ku, Kawasaki 215-0017 Tel/Fax 044-988-7773

ブランチ 2006 年次総会

つぎのとおり東京ブランチ 2006 年度年次総会を開催します。すでに議案書をお送りしましたが、ブランチの今後１年間の進路をきめる大切な会員参加の機会であり、かつ例年の議題に加え規約改正提案ならびに役員改選があります。大勢の会員のご出席をお願いします。

６月３日（土）1.30 － 4.30
千代田区総合体育館　２Ｆ会議室

議題
1．2005 年度活動報告
2．2005 年度会計報告
3．規約改正
4．2006 年度役員改選
5．2006 年度活動計画
6．2006 年度予算
7．その他■

ブランチ・ソシャル・ダンス

上記年次総会の終了後、ソシャル・ダンスを行ないます。プログラムはすべて 2005 年度下期のビギナーズ・クラスで踊ったダンスです。気楽にお越しください。

６月３日（土）6.20 － 8.45
秋葉原　昌平童夢館
¥600

Joie de Vivre	J	Book 39
Merry Lads of Ayr	R	Book 1
Sugar Candie	S	Book 26
Miss Nancy Frowns	J	Book 14
The Birks of Invermay	S	Book 16
A Reel for Alice	R	A Reel for Alice
Light and Airy	J	Book 4
Scott Meikle	R	Laurieston
Adieu Mon Ami	S	Book 24
Mrs Stewart's Jig	J	Book 35
The Silver Tassie	S	Leaflet
The Montgomeries' Rant	R	Book 10
Ex. Alan J Smith	J	Book 45
The Reel of the 51st Div	R	Book 13■

ブランチ・クラスの予定講師

（会場はそのつど変わります。毎月のクラス案内をご参照、または担当にお問合わせください）

ビギナーズ・クラス
６月 12 日（月）・26 日（月）1.30-4.30
以降毎月第２・第４月曜日
千代田区総合体育館５Ｆ
講師　五十嵐成子・星野　薫
¥800
3ヵ月前納の場合¥3,500

ステップ・ダンス・クラス
６月 10 日（土）1.15-2.05
講師　川崎千佳
７・８・９月の講師　小山かおる
３回連続で　**¥1,000**

インターミディエイト土曜クラス
６月 10 日（土）2.15- 4.30
講師　境　雅子
７・８月　鈴木百代
９・10 月　谷川とよ

＊＊＊

インターミディエイト月曜クラス
６月５日（月）1.30- 4.00
講師　有田深雪
７・８月　小山かおる
９・10 月　渋谷明美
千代田区総合体育館５Ｆ

アドバンスド・クラス
７月１日（土）6.20-8.45
講師　トム鳥山
８・９月　有田典和
10 月　トム鳥山■

2006 年度支部会員は 413 名

３月末をもって会員登録を締切り、今年度の会員数はつぎのとおりです。

ブランチ会員　413 名（昨年 397 名）
うち本部登録会員　364 名（　同 329 名）■

福島チイ子さんにブランチ賞贈呈

前号ブランチレターで福島チイ子さんに第2回東京ブランチ賞が贈られることをお知らせしました。本部から賞状がとどき、3月12日、チェアマン五十嵐成子から福島さんに手渡されました■

Weekend 2006 終わる

2月17日（金）－19日（日）のWeekend 2006はティーチャーズ・コース27名、第18回合宿に95名の参加を得て石川島研修センター（神奈川県綾瀬市）で開催されました。参加者アンケートでは8割を超える人が「よかった」との感想を寄せられました。

個々の意見では、一つのことがらに対して賛否両論あり、運営の難しさを感じます。

＊ティーチャーズ・コース（講師クレメント篤子）
　言葉の壁がなかったのでよく理解できた。
　グループ別比較研修は時間不足だった。

＊第18回合宿（講師クレメント篤子・小山芳樹）
　充実したクラスだった。
　Stepの細かい指導が参考になった。
　Step練習が長かった。
　ゆったりした日程で、ゆっくり休めた。
　過密日程だった。
　大部屋だったが交流できてよかった。
　大部屋でふとんをかき分けの移動で、よくない。

講習ダンス:

2月17日（クレメント）

Laird of Dumbiedykes' Favourite	R	Bk 12
Tullochgorm	S	Bk 8
課題6ダンス		

2月18日（クレメント）

Just in Time	J	I. Paterson
Trail of the Swan	S	J. Drewry
Highland steps いろいろ		
One O'clock Cannon	R	I. Brockbank

2月18日午後・19日午前（クレメント）

Campbells are Coming	J	Bk 24
Niagara Gorge	S	F. Andrew
Miss Murray of Ochtertyre	R	Bk 11
Where Good Friends Meet	R	I. Boyd
Drumelzier (ﾄﾞﾗﾒﾘｱ)	S	C. Blair
Wee Cooper o'Fife	J	H. Foss

2月18日午後（小山）

Lady Home's (ﾋｭｰﾑｽﾞ)Jig	J	MMM-1
Kinguissie (ｷﾆｭｯｼｰ)Flower	R	Bk 21
Asilomar Romantic	S	San Francisco
Anniversary Tensome	R	B. Priddy

2月19日午前（小山）

Swashbuckling Iain	J	San Francisco
Burn's Hornpipe	R	Bk 27
Thirty Years On	S	R. Goldring
Pentagon	R	J. Drewry

2月19日午後（ｸﾚﾒﾝﾄ）

Burns Night	J	Boston 50th
Welcome All	S	S. Bourne
All for Mary	R	R. Goldring

RSCDSがティーチャーに望むこと

Weekend 2006のティーチャーズ・コースで、RSCDSはティーチャーになにを望んでいるか、本部アイリーン・ベネット（次期チェアマン）とデビッド・ノーマンハリス（教育研修委員長）の公式見解が下記のとおり示されました。

＊指導技能に関する研修会・合宿にできるかぎり定常的に参加すること。

＊経験あるティーチャーのクラスにできるだけ参加すること。そのティーチャーの指導スタイルを観察することにより、よい指導とはなにかを評価する能力が向上する。

＊同様に、テクニックを維持し向上させるため、（ダンシング熟練度に関するクラスのある）研修会・合宿に参加すること。

＊指導法を議論する定例ティーチャー・ミーティングは得るところが大きい。かつ2005年版マニュアルの参照を習慣とすること。

＊教育研修委員会は指導技能のコースの体系を具体化中である■

World Dance Day 2006

ユネスコ提唱・RSCDS 協賛の World Dance Day が 4 月 29 日、港区スポーツセンターで開催され、300 人を超える参加者で大盛況でした。

（注：最近ユネスコでは'World Dance Day'といっています）

ホールの広さにくらべて予想数以上のフォークダンサー、SCD ダンサーが来場し、プログラムは品切れ、ダンシングはすし詰めという 1 日で、参加されたみなさんに満足に踊っていただけなかったことをおわびします。

Ladies Step Dancing のデモはフォークダンサーに好印象で受け取られました。SCD のエチケットを知ってもらいたかったが、この混雑のなかではという意見、SCD のダンス選定に難あり（Inverneil House, Gentleman は経験の少ない人には向いていないのでは）という意見などあり、来年はもっと努力し、より楽しい WDD にしたいと思います■

日本語版マガジン、マニュアル
－ 発行準備進む －

マガジン Scottish Country Dancer

いままでのブリティンに代わり、RSCDS マガジンが年 2 回本部から会員に直送されています。充実した内容を会員に知っていただきたいと思いつつも、ブランチ単独で邦訳するには相当量の内容であるため、第 1 号の邦訳は見送ってきました。そして費用の問題もあります。日本語版 1 回について 1 部 400 円ほどの費用を要し、年会費 2,000 円ではやって行けなくなる恐れがあります。日本語版発行はブランチの責務といえるし、繰越金に余裕がないわけではない、ということで発行に踏切りました。

各ブランチが独自で全文を翻訳するのは時間と労力をどぶに捨てるようなもの。日本 3 ブランチ共訳による日本語版マガジン発行がまとまり、それほど遠くないうちにブランチ会員にマガジン第 2 号日本語版をお届けできそうです。

3 ブランチで合意した事項：

＊各ブランチが原本内容を期日までに 1/3 ずつ分担して邦訳し、他の 2 ブランチに送る。

＊各ブランチにおいて必要な修正を行い、印刷、会員配布する。

第 1 号の日本語版は埼玉ブランチで邦訳・会員配布したものがあり、同ブランチの厚意により日本語版原稿写しを分譲いただきましたので、第 2 号日本語版と同時期にあわせて会員配布します。

マニュアル The Manual of Scottish Country Dancing

3 年前の資格試験において、エギザミナーから基本知識の不足とマニュアルの日本語化を強く指摘され、3 ブランチとも分担して邦訳にとりかかる意向をもっていました。その時点ではマニュアルに全面的変更がなされるのが明白であったため、新マニュアルの発行後にあらためて 3 ブランチで調整し日本語版発行を進めることにしていました。

2005 年サマースクールで新マニュアルが発行されました。マガジンの邦訳以上に時間・労力を要するため、マニュアル日本語版は今回の資格試験に間に合わないとあきらめていましたが、東海ブランチ・セクレタリ、近藤ゆう子さんの超人的な努力によって日本語版ができあがり、全受験生に参考として配布されました。

日本語版の恩典をわがブランチにも、と同ブランチに伝えたところ、快諾を得ました。ただしマニュアルは一過性のマガジンとはことなる特質があるため、日本語版正式発行は著作権使用許諾その他でソサエティの認可を得たのちとなります。

日本語版に頼りきるのはティーチャー、ダンサーのためにならない、オリジナル版が売れなくなるのは RSCDS の収益減少につながる、日本語にすると冗長でわけの分からない文章になる、という理由から、第 6 章「Formations」、第 7 章「Notes for dances」、第 8 章の 8.6 項「Organising and MC-ing dances」、8.7 項「Using recorded music at dances」、8.8 項「Advice to adjudicators」および Appendix は邦訳されておりません。

正式発行のあかつきにあらためて購入希望をつのりますので、いましばらくお待ちください■

2006 年度ブランチ行事予定

9 月	RSCDS 新ダンス講習会
1 月	New Year Dance 2007
2 月 16－17 日	ティーチャー研修会（石川島） 講師　アン・ディックス
2 月 17－18 日	合宿（石川島研修センター） 講師　アン・ディックス他■

運営委員会報告

3月4日

(1) Weekend 2006　アンケートの集計結果報告に基づく反省と評価を行なう。総合評価は良好。次回アンケートを行なうときは、より具体的な回答が得られるよう準備する。

(2) Exams 2006　試験実行委員会の進捗状況を担当者から聞く。3ブランチから12名の翻訳者を得て、2月26日Unit-1解答の和文英訳を行なった。3月以降の日程を確認。

(3) World Day of Dance 2006　進捗状況を大井富佐子ブランチ実行委員長から聞く。3月3日都FD連との打合せにより、会費500円・参加予定者数250名などを決める。東海ブランチが都内でWDD実施予定との話を聞き、同ブランチに本部指導の順守を確認することにした。

(4) ブランチ・クラスの講師　アンケート回答をもとに、5月から10月までの各クラス講師を内定する。

(5) 2006年度ブランチ役員候補者について意見を交換する。

(6) マガジン邦訳について、3ブランチの調整会議報告あり。合意事項は本号3ページのとおり。

(7) その他　5月1日のブランチ・クラスはExaminerによる指導とする。Examinerが誰かはまだ不明。

4月1日

(1) Exams 2006　Unit-1の合否はまだ不明。Unit-2, Unit-3のトレーニングは全員合格の前提で進める。Full Certificateの筆記試験は本日実施中。4月2日に和文英訳作業。

(2) World Day of Dance 2006　ブランチ派遣スタッフ、ダンス内容、時間割、ブランチMC、モデル・セットなどを確認。東海ブランチのWDDは同ブランチから「心配無用」の連絡あり。

(3) 2006年度ブランチ役員候補者について意見を交換する。

(4) 2006年度年次総会　6月3日総会の2週間前には会員に議案書が届くようにする。受付・書記・司会を決める。総会後のSocial DanceのProgrammeを決める。ビギナーズ・クラスの講習ダンスから選んだ。

(5) マガジン邦訳　第2号の後ろの1/3が当ブランチ担当。他ブランチ分をあわせ、1本化は鳥山が行なう。第1号は埼玉ブランチで邦訳済みのため、同ブランチに邦訳写しの分譲を請願し、OKなら当ブランチで印刷・配布を検討する。

(6) 2007年合宿の英国人講師候補を決めた。訪日依頼は鳥山が行なう。

(7) 5月1日のブランチ・クラスは特別クラスとし会費1,000円とする。ティーチャーはエルマ・マコースランド。

(8) 会員登録状況を取りまとめ中。会員数にそれほどの増減はない見込み■

Exams Tokyo 2006

2月18日のUnit-1（筆記）試験から始まったExams Tokyo 2006は、4月・5月のダンシング実技試験・指導実技試験で頂点を迎え、5月7日無事終了しました。

この間、指導実技試験のスチューデント（ボランティア・ダンサー）、試験会場の設営と受付、トレーニング時の茶菓提供、通訳、答案の和文英訳などで3ブランチから延べ200人以上の積極的な協力があり、試験実行委員会JEC-2006からお礼のことばが寄せられています。

受験生自身の努力とチューター（Bruce Frazer、Jean Martin、小山芳樹、五十嵐成子）の卓越したトレーニングによってすばらしい成果が生まれ、他国から「なぜ日本人はこのようなよい成績がとれるのだ」という驚きの感想が伝えられています。合格者はつぎのとおりです（太字東京支部会員）。

Part 1：大島治子・**片岡文子**・片桐秀実・佐藤博文・**清水豊**・高橋陽子・**竹本光雄**・**永谷順子**・**松木道子**・矢島重子・山口彰・山本リエ（12名）

Full Certificate：本部からの連絡待ち。

今回のExams Tokyo 2006について感想・反省は（軽重とりまぜ・順不同）、

(1) 3ブランチ合同のJEC-2006が責任と権限をもって実施したのは評価されるべきではないか。予想を上回るスチューデント応募があったことにそれが表われている（JEC-2006は、参加を断わらざるをえなかった応募者に申しわけなく思っている）。日本のブランチ間の実情を知るRSCDS本部その他関係者も、今回のやり方を高く評価している。

(2) ブランチの枠を外したトレーニング・クラス編成で受験生間に連帯意識が生まれ、合同のJEC-2006とともにその精神は日本のSCD発展に役立つと考える。

(3) Unit-1, -2 & -3からなるPart 1試験は日本で初の経験であったため、「へぇー」と思われるところがあった。たとえば、Unit-1で質問紙と解答とを一緒にExaminerに直送すること（質問紙の持帰り・コピー不可。採点後ならよい）、Unit-2 & -3でExaminerは受験生に感想を直接述べることができない、など。とくに後者は今後改善されるべきであろう。

(4) Examinersの感想であるが、スチューデントにティーチャーが多数を占めるのは受験生のためにならない（言われるとそのとおりできるので）。また、スチューデントにホンモノの男性

を増やすべきである。

(5) 受験をこころざす人は試験シラバス（東京支部が2005年秋に全会員に配布した「RSCDS新試験要領」）をよく読んで、自分にその能力が備わっているかを自問したうえで受験してほしい。訓練はすでに備わっている能力をさらに磨き上げる場、と理解したほうがよい。Unit-3の訓練時間が最小20時間と少ないのは、これを前提にしていると思われる。

(6) 「私は女性しかできない（あるいはその逆）」とスチューデントに試験会場でダダをこねられたのには参った。今後はどちらをやれるか、事前につかんでおく必要がある。

(7) 本部の日程確定が遅れ、会場探しは6ヵ月前になって始めたため、各所での分散実施となった。今後は1年前に場所を確保し、本部に「この日程でExaminersを派遣して」と要請すべき。

(8) なんのために受験するのか、目的意識をもっとしっかり持ってほしい。みんなが受けるから、肩書きにハクをつけたいから、○○さんに受けてみろといわれたから、□□さんを見返してやりたいから、自分の実力がどの程度か知りたいから、指導資格にあこがれているから、みんなに一目置かれたいから、あの人が資格をとって私にないのはおかしいから、理由なんかない、ただ受けたいからか？　受験を決めるにあたり、なぜ試験制度があるのか、なぜ受験するのかもう一度自問し、はっきりした答えをもって受験にのぞんでほしい■

次回 Unit-1(筆記)試験案内

Unit-1試験は指導資格を得るための最初の関門で、年3回、以下の日どりで世界共通に実施されます。Unit-1に合格した人は2年以内にUnit-2 & -3に挑戦しないと、合格が無効になります。このつぎ日本におけるUnit-2 & -3試験は2009年春と予想されるため、日本でUnit-2 & -3受験を考えている会員は、2007年5月以降にUnit-1受験のほうがよいでしょう。

10月第3土曜日　(2006.10.21)
2月第3土曜日　(2007.2.17)
5月第3土曜日　(2007.5.19)

日本においては3ブランチ持ち回りで主管ブランチを決め、この日程でUnit-1試験を実施することになります。

各ブランチにこだわらず、試験監督者がいれば受験生1人でも、どんな場所でも受験可能ですが、東京ブランチでは試験の公正を期するため、各ブランチで行なわれる機会に受験するよう願っています。

2006.10.21のUnit-1試験は埼玉ブランチが主催します。（東京ブランチは2007.2.17の試験、東海ブランチは2007.5.19の試験を担当）。受験生名簿の確定は試験の6週間前となっているので、受験を希望する会員は早めにブランチ・セクレタリまでお申し越しください。

最終締切り：2006.7.31■

サマースクールいまむかし2題

ミス・ミリガン、食堂入口でにらみをきかす
（ビアトリス・ネアン、パース・ブランチ）

アリスター・マクファジェンの記事（ブランチレターNo.69所載）はいろいろな思い出を浮かび上がらせてくれた。わたしがサマースクールに初めて行ったのは1957年で、それ以来1964年を除いて2002年まで毎年セント・アンドルーズ巡礼をつづけた。1964年はフランスのニースで国際フェスティバルがあり、日程的にも金銭的にも両方に参加するのはムリだった。

45年間にサマースクールの規模を上回るほどの変化があった。信じられないと思うが、ユニバシティ・ホールとウォードローの宿泊者の食事は、いまダンシングに使われているオールド・ダイニング・ルームで供されていたのである。ミス・ミリガンがドアのすぐ内側の席に陣取り、遅刻しようとするものはだれ1人としていなかった。

アリスターがいうとおり、みな午後はウェスト・サンズに車座になり、ミス・ミリガンはビーチ・パーティや他のソシャル活動から除け者にされたものがいないかをチェックしていた。

最初に参加したクラスのティーチャーはスターリング市のミス・カザリン・ジャービス、そこを卒業してミス・ミリガンのクラスに移り、かの女が亡くなるまでそのクラスだった。アバディーンのティミー・クラムはレディス・ステップ・クラスで教えていたが、ビギナーズ向けではなく、わたしには用語の半分も分からなかったので、ばたばた動くばかりだった。

ピート・パブなどでフィッシュ・アンド・チップスを急いでとったあと、10時の門限に間に合うよう宿舎に駆け戻ったというのは本当である。あるときは「コッカレル（若いおんどり）クラブ」に行ったことがある。わたしは名札をつけたままだった。そこにいたのはどんなおんどりだったと思う？

セント・アンドルーズのサマースクール、楽しい思い出と友だちを思い出させてくれたアリスターに感謝している。

1年の参加中断がくやまれる

（シェラ・バーンズ、サマセット）

アリスター・マクファジェンの記事を読んですぐにさまざまなことがつぎつぎと思い出された。セント・アンドルーズにはわたしも最初汽車で行った。エジンバラ発の車中で3人のダンス仲間と出会えたのはラッキーだった。1950年代の終わりのころで、わたしは当時ノッティンガムで踊っていた。わたしはまた、ビル・アイアランドを筆頭とするロンドン・ブランチの一団にも温かく迎えられた。

みなさんはコッカレル・クラブを覚えている？よそよそしい水面下のクラブで、メンバーはおんどりのバッジを襟にさしていた。クラブの入会儀式はセント・レギュラス・ホールが暗闇に閉ざされる深夜に行なわれた。これはまったくばかげたものであったが、アリスターのいうとおりみな無邪気に喜んでいた。新会員でユニバシティ・ホールに泊まっていたものは地表階の部屋（人がいる！）から窓伝いに上に登るという義務があった。わたしはアバディーンの若い女性5人が登ったのを覚えているが、うち2人はいまもよく見かける現役のダンサーである。午後、浜辺でボビー・ワトソンがバグパイプを吹きながらひざを上下させていたのを思い出す。

あるとき、わたしと晩年のハロルド（わたしの夫）とグラスゴーにフィルム録画に行ったことがある。アーガイル・ブローズワーズ・テレビのSCD番組 'Kilt is my Delight' だった。奥方連中は、プロデューサーが「ウン」というまで亭主たちがなんどもハイランド・ダンシングをやらされるのを、バルコニーから見物していた。ミス・ミリガンのインタナショナル・ダンサーズ・チームも同時に出演していた。チームは 'Miss Bennet's Jig' をなんべんも踊らされ、わたしたちも同じ曲をいやになるくらい聴かされた。放映されたものはちょいの間で、しかもカラーではなかった。

1956年に始まってわたしは毎年のようにサマースクールに行っている。昨年 (2004)、ウィンタースクールの居心地がとてもよかったので、夏は休んだ。けれども例年の参加を取りやめたことをくやんでいる自分に気付いた。というわけで2005年にはまた行ったのである。サマースクールに着き、旧新の友人に会ったその瞬間から、毎年来なければいけない、前年も参加すべきだったと自分自身納得した。一度も参加したことのない人たちにわたしが本心から言いたいことは、ぜひおいでなさい、ダンシングと音楽もすばらしいですよ！ ("Summer School Memories" by Beatrice A. Nairn and "Memories" by Sheila Barnes, from The Reel No.255, Feb – Apr 2006, by the courtesy of the RSCDS London) ■

ストラスペイのテンポ

（ビル・クレメント）

ストラスペイはスコットランド独特の音楽であるが、ストラスペイを踊るとき、そのテンポは時代によってさまざまに変化してきた。

RSCDS マニュアルでは、スコット・スキナーが勧めたテンポは1分間94拍、32小節あたり41秒、と述べている。

1932年のソサエティ・ブリティン No.2 で奨励しているテンポは1分間94拍、32小節あたり41秒で、初期の9年間、スコット・スキナーのテンポを踏襲していた。

こんにち、2005年版マニュアルに記載されている奨励テンポは1分間60拍、32小節あたり64秒である。

しかしながらこのテンポは、ダンカン・マクラウドが責任者であった RSCDS 録音開始時にくらべ、さらに遅い。ダンカンがいつも指示していたのは32小節あたり61.5秒だった。

以上のことから、われわれがいかにストラスペイのテンポをスロー・ダウンさせてきたかがわかる。ステップに進化が起こり、あるいは故サー・イアン・モンクリーフ副会長がかつて述べたように、よりバレエ的になったのである。ストラスペイはわれわれに踊る楽しさをたくさん与えるものになった。

しかし、われわれはみずからに問わなければならない。「スロー・ダウン化は、スコットランドの人たちにスコティッシュ・ダンシングを縁遠くさせたのではないか？」と■

サッシュはどっちの肩に？

（スティーブン・ウェッブ）

近ごろどんなボールに行っても、タータン・サッシュを見ることはめったにない。わたしが踊り始めた1970年、ボールでサッシュは普通のことだった。レディはしょっちゅう白いドレスをまとっていた。それから35年、こんにちサッシュはごく少なく、淑女は柄物・色物のドレス、が一般的になった。なぜだろうか? そもそも男はずっとキルトを着けているのに（ときどきタータン・スラックスもあるが）。白いドレスにサッシュはデモンストレーション・チーム専用になっている。デモの観客、審判員はこの組み合わせを期待しているからであろう。

最近、セント・アンドルーズのサマースクールで、白だけのレディス・ステップのデモは少なくなり、黒と白のドレスが見事である。ロンドン・ブランチにおいても黒のデモンストレーション・ドレスを導入している。タータンのダーツつきスカートで、ベストの柄はダンサーの好みとし、新鮮で魅力的な代替服として歓迎されている。

サッシュ着用意欲が薄れたわけは、たぶん肩に止めたサッシュが安定せず、ないほうが気楽、とくにひもなしドレスのときはどうするのよ、ということであろう。もうひとつの理由は踊りの邪魔になることかもしれない。二組でターンするとひらひらしたサッシュがキルト・ピンにからまり、深刻な事態をまねくことがある。

1968 年、ジーン・ミリガンは「RSCDS は、サッシュは左肩に着けることを求める」と述べたが、これはそうしていることを女王陛下に認めてもらいたかったためと考えられる。1973 年の RSCDS Jubilee Book のフロント・ページに、左肩にサッシュを着けた陛下の写真があり、これはその影響である。

わがブランチのデモ・チームはサッシュを右肩に着けている。これはライオン卿のアドバイスによるものだが、ある女性は左側にほかのデコレーションを着けたいから、ともいっている。別の女性は家訓に応じた 4 つのスタイル中から 1 つを選ぶという。50 年前のブランチ機関紙には「女性はウェストから下にはタータンをまとわない」のがスコットランドの伝統、という記事がある。わたし個人としては、スコットランドに関係する行事で女性がタータンを着るのはどことなくすてきだし、間違っていないと思う。どのようにサッシュを着けるかについて、古典絵画や手書き本から引用したいろいろな習慣があるが、こんにちでは「見栄えよければそれでよし」でやればよいと思う。

ブランチ 75 周年ボールでカレン・ストーケルは長いタータンの上部を蝶結びにして背中から下げていたし、サマースクールでマギー・ペイユはかの女自身のスタイルをアピールしている。エセックスではモリーン・ベドフォードが端をロゼット（ばら飾り）にしたサッシュを左肩に着け、これも趣きと魅力あるものだった（"The Sash – Is it here to stay?" by Stephen Webb, from The Reel No.256, May – Aug 2006, by the courtesy of the RSCDS London）■

《新 CD ・ BOOK 紹介》

A Dancing Master Remembered（忘れえぬダンシング・マスター）by Jennifer Wilson
The Dancing Master, Not I, The Moray Rant, Jennifer's Jig, The Sailor, Balquidder Strathspey, A Set of Birlin Reels (4x32), Two and Two, The Braes of Breadalbane, Haste to Wedding, The College Hornpipe, Mr Morison, Alltschellach, The Mairrit Man's Favourite, An Extra Set of 4x32 Reels

'Whisper of the Fyredragon' devised by Bob McMurtry
'Dragonfly' devised by Bob McMurtry
上記は 2 種ともダンス説明書。

A Dancing Master Remembered
－ ジェニファーによるビルへの贈りもの －
（ジョン・ローリー）

ビル・アイアランドとジェニファー・ウィルソンは、2002 年 10 月、ビルのあまりに早い死去までの 30 年間、ともに働いた仲間だった。2 人はサマースクールで多くのしるしを刻んだだけでなく、かずかずの国内外のデイスクール、ウィークエンドに出かけた。1994 年には遠く日本にも行った。この CD はデビッド・カニンガムの強い勧めにより、ビルが好んだ指導ダンスのなかからいくつかを選んだものである。

解説カードでジェニファーは、「ビル・アイアランドが愛した音楽でこの CD をつくることが、かれにささげられる最高の賛辞だと思う。ビルと一緒に仕事をするというのは一種の天恵ともいえるものだった。2 人のパートナーシップは、微笑みをもってたくさんのダンサーに思い出されると思う」

ジェニファーの演奏は見事である。これ以上のことばはない。テンポは正確で一定している。11 の 8x32 ダンスは 32 小節ごとに曲を変えている〔1 ダンスあたり 8 曲〕。オリジナルにフィットするできるだけ多くの曲を入れたとのことで、合計 102 曲が演奏されている。ボブ・マッソンのドラムは控えめである。

解説カードの表紙はサザランドにあるビルのセカンド・ハウス、裏表紙にはセント・アンドルーズにおける 2 人の写真がある。ビルは、"音楽監督殿" に話しかけるときのいつものポーズで、ピアノにもたれている。

ダンスの名前を読むと、ビルのクラスの愉快な思い出がよみがえってくる。数多いトラディショナルとならんで、ジェニファーは 20 世紀ミュージシャンの曲をひろく演奏している。最終トラックはイアン・マクフェイルとグレアム・ミッチェルの曲である。ジェニファーはこれらの曲を 1982 年 10 月のロンドン・デイスクールで弾き、熱烈なスタンディング・オベーションを受けたが、これはそれを上回る CD である（"A Dancing Master Remembered" by John Laurie, from The Reel No.255, Feb – Apr 2006, by the courtesy of the RSCDS London）

（Tom Toriyama）

ピアニストにはソロ演奏専門のプレイヤーとソロ、アンサンブル両方ができる人がいる。ジェ

ニファー・ウィルソンは前者である。となれば、ジェニファーのCDは録音・市販もなく、サマースクールなどで演奏をきくだけと思っていただけに、このCDの発売はうれしい。かの女は情緒たっぷりに弾く人ではないので、スコット・スキナーの曲も甘さは少なく、「SCD音楽とはこういうものだ」という主張が伝わってくる。ビル・アイアランド、そして東京支部10周年の思い出を大切にする人にお勧めする。

〔注文略号：ジェニファーCD　¥2,900〕

'Whisper of the Fyredragon'
'Dragonfly'　　devised by Bob McMurtry
(Tom Toriyama)

上記は、ことし1月にご紹介した多芸多才の元消防官ボブ・マクマートリのダンスブック 'The Devil's Quandary'の続編2種である。マクマートリとサンフランシスコ・ブランチのメンバーが作ったビギナーズ向け、経験者向けの踊りが'Whisper of the Fyredragon' には33、'Dragonfly' には26のダンスが収められている。ダンス内容は玉石混交である。一部楽譜つき。

〔注文略号：ファイヤドラゴン・ブック ¥1,200
ドラゴンフライ・ブック　¥1,200〕

上記の商品のご注文は
郵便振替　00240－0－　63517　東京ブランチ
締切り　6月15日(木)
(価格は送料込み)
お渡し予定　7月中旬　　担当　トム鳥山■

最近の本部のうごき

＊役員会とブランチとのコミュニケーション強化のため、役員会メンバーごとに担当ブランチを決めた。**東京ブランチはマージョリー・ヒュームが担当する。**(マージョリーからさっそく、よろしくとの連絡あり)。

＊ソサエティ規約改正案を各ブランチに送り、意見を求めている。役員数の縮小、役員会開催回数の縮小などで、会員の権利には影響ない(ため、当ブランチはとくに意見なしで回答した)。

＊ソシアル・ダンシング時のバンドの音量について(英国では大音量でダンサーに不評あり)、役員会としては、まずMCがバンドリーダーに適度な音量に下げるよう依頼してほしい、とした。これでもダメなら、なんらかの行政指導を検討する。

＊マガジン 'Scottish Country Dancer' 第2号も好評を得ている。

＊RSCDS 商品の販売促進のため「マーケティング部長」を雇用する件はなお検討中である。

＊当面の出版物発行予定は
サマースクールでBook 14 CD, Book 35 CD, ポケット判 Book 42－45, Formation Index。
Formation Index はどのフォーメーションがどのダンスに、どのダンスはどんなフォーメーションがあるか、の索引になるので分厚くなる。
11月のAGMでBook 27 CD。

＊用語集はハンドブック形式になる。制作の優先順位を上げて作業中。

＊「コア・レパートリ集」に対する反応は低調。

＊ソサエティ自身のタータンを持つべきとして、選定したタータンの現物を検討用に作ることになった。

＊エリック・フィンリーとジャネット・ジョンストンがサマースクール2006の副校長になる。

＊2007年のウィンタースクール校長はヘレン・ラッセル。ヘレンは教育研修委員会の副委員長も1年間つとめる。

＊米国カロライナ・ブランチ設立が承認された。

＊ブエノス・アイレス・ダンサーズ(アルゼンチン)その他が加盟グループとして承認された■

グループ行事案内

のしろウィンズ
SCDパーティ
6月11日(日) 10－3　¥1,500
能代山本広域交流センター
織田淳子　0185-54-1515

十和田グループ
9th SCD Party in Towada 2006
6月25日(日) 9.30-3　¥2,000
十和田市南公民館
工藤祐享(ヨシミチ)　0176-22-5012

岐阜スコティッシュカントリーダンスクラブ
Summer Ball 2006
7月2日(日) 11-5　¥9,000
岐阜グランドホテル
渡部秀樹　0587-55-2423

大和SCDC
20周年サマーボール
7月30日(日) 11-4.30　¥6,500
茅ヶ崎コミュニティーホール
申込締切り　7月15日
郵便振替　00290-9-47034　梶野幸雄
梶野幸雄　0466-44-3537

次号は8月発行予定。9月-11月のお知らせ乞う